



大すきいっぱい西北の子

～学びづくり、くらしづくり、仲間づくり～

令和7年12月4日
長崎市立西北小学校
文責：校長 江原芳樹
R7年度 第7号

12月になりました。秋はいつだったのだろうと考えてしまいますが、確実に季節は移り替わっています。12月はこの1年を振り返るときだと思います。

振り返ると良いことばかりではないことにも気付きます。むしろ、良くないことの方が印象に強く残っているものです。それでも、こうした良くないことも大きく含めながらも、前を向いていく姿勢をもって、今年一年を締めくくりたいと思います。

2学期は行事を通して成長する

学校には一年の流れがあり、2学期は各学年が大きな行事を通して、学校生活の中だけではなかなか身に付かない力を高めていく時期です。4年生では小学校音楽会、5年生では野外宿泊学習、6年生では小学校体育大会と修学旅行がそれにあたります。下学年でも、社会科見学や生活科校外学習など、学校外での学習の場面があり、学校内とは違った学びを体験します。もちろん、すべてが満点と評価できることはありませんが、確かに行事を通して子供たちが高まっていました。

【9月】

5年生の宿泊学習では、2泊3日の生活を共にしました。自分のことだけでなく、周りのことを気にかけながら、「みんなが」「みんなで」という意識の高まりがみられました。この宿泊学習を機に、5年生全体が頼もしくなったことは確かです。



【10月】

6年生が今年から新しくなった小学校体育大会に臨みました。優勝を勝ち取った競技も、残念ながら優勝を逃した競技も、本番に向かいながら、チーム力を高め、「練習の成果をしっかりと出す！」という共通の目標をもって取り組んでいきました。



【11月】

6年生の修学旅行では、時間行動がそれは見事でした。私は何度も修学旅行を経験していますが、ここまで時間通りに行動することができた修学旅行ははじめてです。一人ひとりの意識が大きな集団意識となって行動していたことを感じました。



4年生の小学校音楽会では、堂々とした姿をステージで披露しました。音楽的な出来栄えだけでなく、自信をもってステージに立つその姿のたくましさに驚きました。代表となっていた終わりの言葉でも、担当した3名はそれはそれは堂々とした姿でした。



高学年が見せた姿は、西北小の今の姿です。課題は様々ありますが、こうして子供たちが確かに成長していることを確かめることができます。嬉しい限りです。

《校長散歩道 No.26》

11月20日、160名の参観者と共に、西北小学校の研究発表会を実施しました。西北小学校のテーマは「学びに向かう力の育成」です。子供が主体的に学びに向かう力を高めていくことを目的としています。主体性が高まるためには、子供自身が自分の学びの実感を得ることが不可欠です。つまり、自分の力で知識を獲得していく経験をさせる必要があります。

子供はどのようにして知識を獲得していくのでしょうか。

子供は幼少期の獲得した語彙が少ないうちから、言葉を果敢に使いながらコミュニケーションを図ろうとします。言葉の意味を獲得するということは、単に音として理解するだけでなく、言葉をつかえるということです。

例えば、「赤」という言葉の意味をどのように獲得していくかを考えてみます。私たち大人が「アカ」について教えられるとしたら、消防車やトマトなどを指して「アカ」と音を発していくことぐらいです。でも、子供が「アカ」という言葉を使えるようになるということは、一般的に赤いものとして使う消防車やトマトだけでなく、その他の「アカ」と呼ぶすべてを「アカ」と認識して、「アカ」と呼ばない色は「アカとは違う」と認識しているということです。

こうした知識の獲得のためには、「アカ」とは似ているが違う色との出会いがとても重要です。「アカ」と似ているのに、オレンジやピンクと言われる「アカとは違う色」との出会いが、「アカ」という色をしっかりと獲得できることになるのです。おそらく、赤とオレンジ、ピンクの違いをしっかりと教えてもらった子供はいないでしょう。それにもかかわらず、子供が明確に「アカ」とオレンジ、ピンクを獲得していくのには、それぞれがどのような関係になっていて、それぞれの境界がどこで引かれるのか自分なりに探して納得できるようになっているからです。「生きた知識の獲得」とは、こうした過程があってはじめて成立するのです。

学校では対話的な学びを重視しています。同じように解決に向かいながらも微妙に異なる考え方と出会うことで、子供は自分の考えを理解し、より確かな知識として獲得できるからです。「よく聞きなさい」から「一緒に考えなさい」へ、意識の変革が求められています。